

## 朝から晩までコミュニケーションを取るための豆知識

Catherine Horton, MS, CCC - SLP, BCBA

新学年を間近に控え、1日を通してコミュニケーションの機会をどのように組み込むのが最もよいかについて、多くの専門職や支援職の人たちは考えているかもしれません。最終目標は、すべての子どもが朝の目覚めから夜の就寝まで、確実にコミュニケーションがとれるようにすることです。しかし、どうすればこの目標を実現できるでしょうか？考慮すべきいくつかの注意事項を取り上げてみました。

- PECSを単独の活動としてスケジュールに入れしないでください。よく見かけるのが、視覚的スケジュールに30分の「PECSの時間」がスケジュールされていることです。コミュニケーション・スキルに取り組むための時間帯を設けることは役に立つかもしれませんが、この時間だけがPECSを使う唯一の時間帯であるなどということはありません。もしPECSがその日のスケジュールにある活動に過ぎない場合、子どもはPECSのことを単なる一つの活動...分類課題やマッチングや数え上げ課題と同じような活動としてとらえてしまう可能性があります。
  - 一日を通してコミュニケーションの機会を確保しましょう！最低でも1日に40～50回のコミュニケーションの機会を設けるべきです。まず、子どもがどのようなアイテムや活動を楽しんでいるのかを見出します。それらの活動の中で、コミュニケーションの機会を作るために、一部の部品を与えないでおきます。例えば、美術活動では、子どもの好きな色の絵の具を渡すのではなく、子どもが自発的にその色の絵の具を要求するのを待ちます。
- 環境の中にある全ての物を自由に入手できるようにしないでください。もし、子どもの好むアイテム全てが低い棚や床の上にある場合、子どもは自力でそれらのアイテムを入手する可能性があります。
  - 容器の中や高い棚に好むアイテムを収納してください。アイテムは目に見えるところにあっても手の届かないところに置くようにしてください。そうすることで、さらなるコミュニケーションの機会が生まれます。
  - アイテムや活動の一部を提供しながら、別の必要なアイテムを保留します。たとえば、テーブルにジュースのピッチャーを置いたとした際に、コップは出さないでおきます。ゲーム盤を提供しますが、ゲームで使うサイコロやカードは出しません。あるいは、タブレットを提供しますが、ヘッドフォンは出さないでおく。



- 好む活動を中断してみる。たとえば、子どもがブランコを押してもらうのが好きな場合、押すのをやめるか、または、ブランコを止めます。子どもがもっと押してほしいと要求するのを待ちます。

最後にとりわけ重要なことですが、1日を通してコミュニケーションの機会を捉え、創造することを楽しんでください！

翻訳者：門 眞一郎

編集：ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン